

科目名 ナンバリングコード	家族社会学 SOC1126MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 藤田 智子 (九州大学)				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>本授業では、家族研究の基礎概念、代表的な理論やアプローチなどを学ぶとともに、家族に関わる具体的な問題について社会学やジェンダー論の視点から考察する。近代社会における家族をめぐる事象を取り上げ、その事象の背景にある社会構造を理解することで、われわれが「あたりまえ」とみなしている家族のあり方を相対化し、家族に関わる「問題」がいかにか社会的、文化的、経済的、政治的背景の中で構築されるのかを批判的に考察する力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>家族研究の基礎概念や理論を理解する。近代社会における家族をめぐる「問題」の原因や背景を社会学やジェンダー論の観点から理解し、それを解決するための方策を考察する（必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらう）。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	イントロダクション：家族とは何か	藤田【講義】	初回についてはシラバスを読んでくる。第2回以降は、毎回配布される資料を読み返し、授業内容を復習し、試験に備える。	60分	
第2回	近代社会における家族とジェンダー	藤田【講義】		60分	
第3・4回	近代家族と家族規範：「巣鴨子ども置き去り事件」を例に	藤田【講義】		60分	
第5回	結婚と家族：多様化する「家族」のあり方	藤田【講義】		60分	
第6回	少子高齢社会：少子化の何が「問題」か	藤田【講義】		60分	
第7回	ケア・家族・ジェンダー	藤田【講義】		60分	
第8回	福祉と家族(1)：福祉国家の形成と変遷	藤田【講義】		60分	
第9回	福祉と家族(2)：ひとり親家族の貧困問題	藤田【講義】		60分	
第10回	家族と暴力(1) 児童虐待を考える	藤田【講義】		60分	
第11回	家族と暴力(2) DVを考える	藤田【講義】		60分	
第12回	生殖と家族(1)：親になること／ならないこと	藤田【講義】		60分	
第13回	生殖と家族(2)：生殖補助医療と生殖ツーリズム	藤田【講義】		60分	
第14回	看護職にとっての「家族」	藤田【講義】		60分	
第15回	まとめ	藤田【講義】		60分	
テキスト	なし。毎回、講義用資料を配布する。				
参考書	落合恵美子『21世紀家族へ【第4版】』有斐閣、2019年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学【四訂版】』培風館、1997年／千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(80%) 受講態度(20%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 リアクションペーパーをもとに授業へ積極的に参加する姿勢を評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	特になし(レポートは原則、課しません。)				

科目名 ナンバリングコード	微生物と感染 BMS1415MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義・実習	1 単位
科目責任者	医学部感染制御学講座 教授 渡邊 浩				
科目担当者	医学部感染医学講座基礎感染医学部門 小椋 義俊、山本 武司、奥野 未来 医学部感染医学講座真核微生物学部門 井上 雅広 医学部感染制御学講座 原 好勇、岩橋 潤 医学部医学教育研究センター 柏木 孝仁 非常勤講師 濱田 信之				
教育目標 到達目標	教育目標 感染症に関する基礎的理解を深め、感染症患者への対処法を習得する。 到達目標 1) 感染症の疾患名とその病原体について説明できる。 2) 各種病原体の感染経路、伝播様式、予防・治療法、消毒法、検査法について説明できる。 3) 感染防御法を実践できる。 4) 病原体の侵入に対する生体の防御機構について説明できる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	微生物の病原性 海外旅行関連の感染症と感染経路および予防 院内感染の感染経路、伝播様式の理解および感染防御法 ウイルスの性状 ウイルスの滅菌・消毒法 ウイルス感染症の診断法 1 (抗原検査) ウイルス感染症の診断法 2 (抗体検査) ウイルスの病原性 1 ウイルスの病原性 2 細菌の性質 感染防御機構と化学療法 臨床で遭遇する細菌感染症 細菌のコロニー、形態を理解する (1) 細菌のコロニー、形態を理解する (2) 蠕虫および原虫疾患	渡邊【講義】 渡邊【講義】 渡邊【講義】 渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】 渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】 渡邊・原・岩橋・柏木・濱田【実習】 原【講義】 柏木【講義】 小椋【講義】 山本【講義】 奥野【講義】 小椋・山本・奥野【実習】 小椋・山本・奥野【実習】 井上【講義】	教科書および 実習書を予め 読んでおく。	適時 (教科書 の該当ペ ージを全 て読むの に必要な 時間)	
テキスト	系統看護学講座 微生物学 (医学書院)				
参考書	微生物学実習書 (久留米大学医学部感染制御学講座編 2022 年度版) (前もって配布)				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (90%) 出席率 (10%)	筆記試験は一定の正答率をクリアしているかを基準とする。なお筆記試験には実習レポートの評価も含める (結果を正確にまとめ考察を行っているかを基準とする)。出席率は一定の出席率を満たしているかを基準とする。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	病理学 BMS2114MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部病理学講座 教授 矢野 博久				
科目担当者	医学部病理学講座 大島 孝一、中山 正道、真田 咲子、三好 寛明、高野 桂、三原 勇太郎 大学病院病理部 秋葉 純、水落 伸治				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>病理学は病気の原因・本質を解明する学問である。病気による組織の形態的变化を理解するとともに、最新の細胞生物学、免疫学的な知識の融合を図り、病気の原因・本質を理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な疾患の分類とその中に含まれる疾患の概念・定義を理論的に確実に説明できる。 2) 疾患あるいは病的現象に関して、適切な医学用語を使用し説明できる。 3) 主要な疾患の成因や、疾患によってもたらされる臓器の形態的・機能的変化を正常状態と比較し説明できる。 4) 疾患の大きなカテゴリーと臓器の組み合わせによって、個別の疾患を系統的に理解するための礎を築く。 5) 病理検査の内容について説明できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	序論・病因と疾病の分類、奇形・遺伝性疾患	真田【講義】	<p>予習： 毎回、該当する内容に関してテキストを熟読し、分からない用語などは事前に自分で調べておくこと。</p> <p>復習： 講義での説明や配布資料を見直し、文献などを用いながら理解を深める。</p>	30分	
第2回	代謝障害(1)	高野【講義】		30分	
第3回	代謝障害(2)	高野【講義】		30分	
第4回	進行性病変	秋葉【講義】		30分	
第5回	循環障害(1)	三好【講義】		30分	
第6回	循環障害(2)	三好【講義】		30分	
第7回	炎症(1)	大島【講義】		30分	
第8回	炎症(2)	大島【講義】		30分	
第9回	免疫	中山【講義】		30分	
第10回	感染症(1)	水落【講義】		30分	
第11回	感染症(2)	水落【講義】		30分	
第12回	腫瘍(1)	矢野【講義】		30分	
第13回	腫瘍(2)	矢野【講義】		30分	
第14回	腫瘍(3)	三原【講義】		30分	
第15回	病理学的検査と病理診断	秋葉【講義】		30分	
テキスト	主教本：岩田隆子、恒吉正澄、小田義直 編集：「わかりやすい病理学」改訂第6版 南江堂 2016年				
参考書	<p>副教本：竹田津文俊 著：「病態生理 基礎のキソ」第2版 学研メディカル秀潤社 2013年</p> <p>詳しく調べる：標準病理学(医学書院)、エッセンシャル病理学、解明病理学(医歯薬出版) →医学図書館にある</p> <p>基礎事項を復習、整理する：看護学生用問題集 →自分のレベルにあつて、解説が詳しいものを探す</p> <p>英単語教本：岡田一義 編：「医学英語ハンドブック」改訂第2版 東京医学社</p>				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(100%)	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。				
課題(レポート等)	に対するフィードバック				